

# 第10回CCSBT会議の結果について

## 寄稿

水産総合研究センター

鈴木治郎 元浮魚資源部長



# 望まれるステレオカメラの即時導入

て、光学的手法であるスなどには、使用の限界がテレオカメラと呼ばれる。しかし、クロマグロを測る方法が世界の遊泳をある程度境界中で実用化に向けた試験を積み重ねられて

全体の推定は極めて不正確であること、太平洋のクロマグロの蓄養の大半を占めるメキシコの例でも、報告される体長組成から推定した年齢組成は実態を反映していないと

では、日本のクロマグロの正確さについては、3年近く飼育する際に死亡する個体もかなりあり、引縄で獲られるが、その推定は正確には

巻網で漁獲されるマグロ類を種苗とする蓄養が漁業の重要な部分を占めるようになった大西洋ク

ミナミマグロでは、科学委員会がすでに試験段階を終了しているとし

は、この問題が望まれる。早急の海域のクロ

きた。現在の時点では、このトロールしてなるべく困る疑念が大きい。また、大西洋クロマグロの学名は、比較しように遊泳させる工夫を行えば、より正確な測定ができる。

問題点、現在の人手可能で、問題点、現在人手可能な状態では、多少の問題点はあるにしても、ステレオカメラによる測定を

州は予算不足を理由に、昨年約束したステレオカメラの導入に失

クロマグロは普通群で遊泳しているの、その群で、一回の巻網操業分れが濃密かつ高速で遊泳する場合は、団子状態となつて、個々の魚の漁獲物から40尾を釣り上げてその体長を測る。また、透明度が低い場合、40尾の測定では、全く改善されない。

正確であるかという点で、正しいかという点で、管理導入に真剣に取り組むこと

の表明はしたものの、確約はできないという発言

直接、魚体に触れることなく、漁獲量(漁獲尾数)や体長組成(体重組成)を把握する方法とし

また、透明度が低い場合、40尾の測定では、全く改善されない。

の表明はしたものの、確約はできないという発言